

【秩父市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

目指す学びの姿：児童生徒が主体的に学ぶ、協働的に学ぶことを目的として、1人1台端末を自己調整しながら活用する姿

2. GIGA第1期の総括

<1人1台端末の整備>

令和2年度に、生徒1人1台の学習用端末を配置し、充電保管庫を整備した。

また、同年度に通常級及び体育館にアクセスポイントを設置し無線通信可能な環境を整備した。

端末を使った家庭学習を可能にするため、インターネット環境が整っていない家庭に貸出用のモバイルWi-Fiを整備し、令和7年3月時点では、500台のモバイルWi-Fiを通信可能としている。

課題としては、今後、学習用端末の活用を推進していくには、ネットワークが不自由なく通信できる環境が重要である。児童生徒が一斉にアクセスした場合に止まってしまふことの懸念や、デジタル教科書等で動作に遅延がでるなどが生じないように、通信環境の改善をする必要がある。

また、学校においてネットワーク回線に接続できる機会が増えるための対策の一つとして、アクセスポイントを増やすなど接続場所を増やすことも検討する必要がある。

<1人1台端末の活用>

令和3年度から令和5年度まで「GIGAスクール構想実現に向けた秩父市ICT活用指標」を掲げ、1人1台端末の活用を進めてきた。

指標1：chromebookを使った授業を行えるようになる。（活用頻度の向上）

指標2：授業支援アプリを授業で扱うことができる。（教員のスキル向上）

指標3：市教委で設定した「アプリケーションスキル」を扱うことができる。
（教員のスキル指導の向上）

指標4：会議アプリを活用してオンライン学習を行うことができる。
（学習機会の保障）

これらを達成していくために、「ICT活用調査」を定期的実施し、状況を把握しながら、1人1台端末の使用に関する研修、授業支援アプリ等の使用方法・活用に関する研修、ICT活用推進委員会や学力向上推進委員会での活用場面・効果的な活用方法等の研修、ICTを活用した校内研修の推進等を行ってきた。

◎成果

- ・4割程度の教師が、1人1台端末を活用する授業を週3回以上行うことができるようになった。

- ・授業支援アプリ等について、学校内での研修や学校間で情報交換で、多くの教員に効果的な活用について広めることができた。
- ・新型コロナで出席停止となっている児童生徒等においても、必要に応じてオンラインで授業に参加できる機会を与えることができた。
- ・児童生徒の情報活用能力向上のために、朝学習の時間等でのタイピングや操作の練習を行っている学校もあり、端末操作に十分慣れてきている。

▲課題

- ・1人1台端末の活用頻度は高まってきたが、効果的な活用となっているかを検討する必要がある。
- ・新任教員や転任教員が、端末やアプリに不慣れで活用が進まない傾向がみられる。
- ・AIドリルの活用状況が、学校や担当教員によって大きく異なる。
- ・端末の持ち帰りが進まない学校がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

令和6年度に「Next GIGA実現に向けた秩父市ICT活用指標」を掲げ、「1人1台端末の積極的活用」「個別最適・協働的な学びの充実」「学びの保障」を推進していく。

指標1：児童生徒が主体的に学習用端末を活用する授業（協働学習・相互学習等）を計画的に行うことができる。（端末を活用した協働学習・相互学習等の充実）

指標2：学習支援アプリ等を授業で扱うことができる。（教員のスキル向上）

指標3：児童生徒に当該学年の情報活用能力を身につけさせることができる。（教員のスキル指導の向上）

指標4：学習用端末を活用する家庭学習の課題等を出し、持ち帰りを進めることができる。（端末持ち帰りの推進）